

自己評価および外部評価結果

グループホーム きままの郷(Bユニット)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に開かれたホームの運営」を理念に掲げ、朝礼時に出勤者、皆で読み上げ毎朝意識付けを行っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や地域の行事や清掃に参加することで、地域の方々と挨拶を交わしたり、顔見知りになり、声も掛けて頂けるようになり地域に溶け込むよう努力しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の方々が施設見学に来られ、認知症の理解、グループホームの役割を説明する機会があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催され、行政担当者、地域代表、家族、入居者、職員と参加し意見交換がなされています。議題に上がる防災訓練など地域と連携して実施されている。会議の内容を記載した郷便りを見てもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センターや国保介護課との連絡を取り情報交換を行っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をする事もなく、身体拘束も皆無です。言葉の虐待も含め、委員会の報告を毎月26日の職員会議で行っています。身体拘束に関してはあり得ない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	院内勉強会で学ぶ機会があります。事業所内やご家族においても虐待がないよう注意し気をつけています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の介護課や院内勉強会で学ぶ機会があります。該当者がなく活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所の時、ご家族に対して契約書を提示し、十分説明し納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の際の家族会や日ごろ来苑の際に話しやすい環境づくりに努めています。ご要望やお願い事に関しては職員会議で話しあい、問題解決に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議に提案してもらい協議しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数に応じて必要な資格取得を目指して院内での勉強会などにも参加してもらっています。それぞれスキルアップを目指して向上心を持って働いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内勉強会を中心に、法人内外の研修も受けられるよう調整している。研修の報告は職員会議で発表し参加できなかった者にも資料を配布している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内や協力施設との定期的な交流を持つことで情報収集に努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の施設見学の時の職員との顔合わせの時に信頼関係を築く努力をしています。入所時に本音を話しやすい温かい雰囲気づくりに配慮し、困り事や不安を的確に把握できるよう心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人との面談と同時に家族との面談も行っています。望む暮らしや心配事を丁寧にお聴きするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族と要望が食い違っている時もありますが双方の考えを調整しながら、前向きな方向への対応を心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活歴を把握し、敬い昔話や苦労話を聴き、得意な分野が活かせる支援を心がけています。学ぶ姿勢をお示ししています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は月一回の家族への手紙でお知らせしています。病気や緊急を要する時は電話でご連絡し、相談できる良い関係が築けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染のビューティーヘルパーさんに2ヶ月に1回来ていただき、散髪してもらっている。文化祭や市、運動会等に参加し、馴染の方との会話や関係性をいつまでも保っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が気軽に会話できるように職員も間に入って支えています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移動されても、たまに面会に行ったり、ご家族にお会いできた時は日頃の様子をお聞きして、関係が途切れない取り組みを行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の日常会話の中で、さりげなくどんな暮らしをしたいのか、本心が聴きだせるよう心がけ支援に役立てています。困難な場合にはご家族の協力も頂いています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談でお聞きし、ご本人のこだわりが支援に活かせるアセスメントを行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活パターンを把握し、自分で出来る事をしていただき生活意欲を高められるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の日頃の行動を観察しカンファレンスを中心に、今までと違ってきている状況を特に把握しケアプランに反映しています。ご家族のご意見もプランに活かせるように聴き取りを行っています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子や身体の状態を介護日誌に毎日記載しバイタルや食事の摂取量も個人ごとに記録しており、情報の共有も出来ています。記録をもとにカンファレンスを行い介護計画に活かされています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に合わせ、病院の受診や送迎を行っています。定期的なリハビリ受診も個人のニーズに合わせ柔軟に対応できています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入所前に利用されていたサービス事業所より聞き取りを行ったり、面会時に来られる近所や知人の方からも情報収集をし、より良い支援ができるように努力しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を大切にし他の病院を希望される場合は家族に同行して頂き家族が行けない時は医療機関と連携をとり医療を受けられるように支援しています。協力病院のかかりつけ医が主ですが、他の医療機関を希望される場合はご家族にお願いしており		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常駐しています。日頃の様子観察は介護職も行い、いつもと違う状態の時は速やかに看護師に連絡し対応しています。週一回訪問看護師からの指導も受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員交代で入院先にお見舞いに行き、状態観察を行ったり、元気づける会話することで早く退院できるように励ましています。入院先の看護師からも状況を聞くようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、希望されれば終末期までの介護をすることを説明しています。状態が急変した時は主治医の意見を参考に、ご本人、ご家族と話し合い、希望を尊重した支援を行います。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を年に1回受講しています。心臓マッサージやAEDの使い方、誤嚥などの対応も指導を受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署からの指導を職員全員受けています。夜間を想定した訓練も行っています。運営推進会議等で地域の方との話し合いの場も多く協力体制を築けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりと尊厳の気持ちを持って日頃の言葉かけに気を配り、特に排泄や入浴時等は自尊心を傷つけないよう言葉使いや行動に特に配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活中で「どちらにしますか？」と選んでもいただける様な言葉かけを行い、自己決定しやすい支援を心がけています。服選び、お菓子、飲み物の好みなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の順番や、散歩の時間やコースなど利用者本位の支援ができるように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は定期的に行い、希望の髪型を美容師に相談して好みのスタイルでカットされている。爪切りや髭そりも剃り残しだけ職員が介助しています。外出時は薄化粧をし、身だしなみに気を配られています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやお茶を入れてもらったりと準備を職員と一緒に、食事の際も入居者と同テーブルで楽しく食事をし、味付けの感想や好みを聞いています。食べ終わった食器をお盆にのせて片付けてもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日記録しています。希望される入居者にはペットボトル500mlの水を朝、夕と提供し水分量の確保ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行っています。介助が必要な入居者にはそばについて言葉かけや一部介助を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンに合わせ声掛け・トイレ誘導をしています。 本人の希望される時間に合わせてのオムツ装着を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、散歩等で身体を動かすように促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入所者の希望やタイミングに合わせてゆっくりと入浴を楽しんでもらっています。。体調によっては清拭や足浴と臨機応変に対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息したり、就寝もご自分の好きな時間に休まれています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を仕分けするときに処方箋を必ず読んで理解に努めています。薬は手渡しし、飲み終わるまで見届けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること、得意なことは率先してやっていただき、役割を持ってもらうことにより意欲や自信が見いだせる支援をしています。梅干しや漬物づくりなど昔取った杵柄で大いに活躍されます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望によって地域の行事ごと、市や文化祭、祭りなど外出しています。家族が家に連れて帰られ満足して帰ってこられます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院へ行った時など売店で好きなものを買ひ物し自分で支払われています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと希望がある時は、対応しています。毎月の家族へ送る手紙の中に、短い文面ですがご本人直筆の手紙も入れています。ポストへ手紙を一緒に出しに行くこともあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気の良い日には窓を開けて自然の風を感じてもらっています。テラスには洗濯物を干し、季節の野菜や花が眺められるようにしてあります。散歩の途中で摘んだ草花をテーブルに飾り季節を感じて居心地の良く過していただくように工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の決まった自分の席の他に和室のこたつ、廊下やテラスのベンチなど思い思いの場所で過ごされています。居室が独りになれる空間、食堂は気の合った利用者との交流の場となることが多いようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こたつやタンス・座椅子、ソファなど使いなれたものを持ち込んで使われています。家族の写真も飾られています。レクリエーションで描いた絵を貼ったり思い思いの心地よい居室で生活されています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など手すりを利用され安全に自立支援ができるように工夫されています。		